様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 6 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007 年度～2009 年度
課題番号：19300212
研究課題名（和文）野外教育の体験活動によるコミュニケーションスキル獲得と日常生活への汎化の検討
研究課題名（英文）Acquisition of Communication Skills through Experiential Outdoor Education Activities and Possible Generalization to Daily Life

研究代表者
柳　敏晴（YANAGI TOSHIHARU ）
公立大学法人名桜大学・人間健康学部・教授
研究者番号：30239800

研究成果の概要（和文）：
野外教育の理論資料“Outdoor Education- Methods and Strategies-”の日本語訳を行い、理論構築の基礎とした。
野外体験とコミュニケーションスキルとの行動的関連要因・環境的関連要因の検討、コミュニケーションスキル獲得の三点から研究を進め、組織キャンプ、海洋スポーツ、雪上スポーツの三つを方略としたプログラム開発を行った。
人間関係円滑化を意図した野外教育プログラムによる日常生活への汎化の検討と、コミュニケーション促進プログラムの質的研究を進めた。
日本教育心理学会第 50 回総会（2008）と、日本野外教育学会第 12 回大会(2009)において、自主シンポジウムを開催し、関係者の意見を戴いた。
研究成果の概要（英文）：
Translated into Japanese the textbook “Outdoor Education- Methods and Strategies-” Ken Gilbertson et al., Human Kinetics, 2006.
This project team lays the foundations this textbook theory. Research between gaining communication skills and behavior factor and environmental factor, and showing the relating factor acquisition the skills of communication.
Verify through developing the programs of organized camp, marine sports and snow sports.
Study through experiential outdoor education activities and possible generalization to daily life intending smooth human relations and quality study of communication acceleration.
Held the symposiums independently the 50th Japan Education Psychology Congress 2008 and the 12th Japan Outdoor Education Congress 2009.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成 19 年度	5,698,300	1,709,550	7,407,850
平成 20 年度	4,700,058	1,410,000	6,110,058
平成 21 年度	4,100,028	1,230,000	5,330,028
年度			
年度			
総　計	14,498,386	4,359,550	18,847,936

研究分野：野外教育学、スポーツコーチ学、運動法方学
科研費の分科・細目：身体教育学
キーワード：教育系心理学、野外教育、体験活動、コミュニケーション、日常生活への汎化、コミュニケーションスキル、自然環境、社会的スキル

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

1．研究開始当初の背景

日本の子供達は、自己肯定感の欠落が高い（日本青少年研究所、2002)。子供の幸福度に関する調査（ユニセフ、2007）で、日本の子供のほぼ三人に一が「自分は孤独だ」と考えている由々しき事態がある。

わが国では、いじめを原因として子供達が自らの命を絶つという悲劇が多発している。いじめを代表とする「非社会的行動」は、対処療法が困難なため「一次予防」が重要である。非社会的行動の多くは、対人関係を中心に起こっており、コミュニケーションスキル獲得が、種々の非社会的行動の予防手段となる（Olweus、 1992)。

コミュニケーションに内在する「意志や感情の伝えあい」機能から、人と人との、説明・説得・納得・共感などが活性化し、「相互理解」「相互啓発」へ発展し、「創造的・発展的な人間関係の構築」が可能となる（多田、2005)。

2．研究の目的

本研究では、いじめや不登校、引きこもり等々の非社会的行動の予防を目指し、コミュニケーションスキル獲得へ有効に機能し得る野外教育の体験活動による支援的プログラム開発を行い、その評価と有効性を検証することを目的とする。

(1)コミュニケーションスキル獲得に向けた野外教育に関する理論構築を行う。

(2)野外の豊富な自然環境での居住者のコミュニケーションスキルを評価し、野外での自然環境と子供のコミュニケーションスキルとの相互関係を検証し、コミュニケーションスキル獲得への、環境的・行動的決定因を特定する。

(3)コミュニケーションスキル獲得を意図した野外教育における体験活動プログラムを開発し、その獲得効果をポジティブな視点及びネガティブの視点の双方から検証を行う。

(4)コミュニケーションスキル獲得を意図した、野外教育における体験活動プログラム実践による、日常生活への汎化効果の検証を行う。

3．研究の方法

本研究の特色と独創性は、理論構築からその効果の検証までの、包括的野外教育プログラムの開発が可能になるところにある。

研究を円滑かつ効率的に進めるために、3グループに分け、役割分担と研究課題を明確にし、研究を進めた。

グループ1：理論構築班5名、野外教育におけるコミュニケーションスキル獲得に関する理論構築

グループ2：実証研究班4名、自然環境とコミュニケーションスキルとの相互関連評価；行動的・環境的関連要因に関する実証研究

グループ3：プログラム開発班8名、組織キャンプを方略としたプログラム開発、海洋スポーツを方略としたプログラム開発、雪上スポーツを方略としたプログラム開発

4．研究成果

平成19年度

先行研究から得られた資料の整理を行い、野外教育の体験活動におけるコミュニケーションスキル獲得及び日常生活への汎化に関する仮説モデルを作成した。その上での理論構築の試み、野外教育における体験活動とコミュニケーションスキルとの行動的・環境的関連要因についての調査、英国における野外教育プログラムの実態把握のための調査員派遣、野外教育プログラム開発に向け、プログラム立案の根拠となる内外の資料収集、研究の進捗状況確認及び情報交換のための全体会議を開催した。

具体的な研究成果は、原著論文 5 編(内海外 1 編)、学会発表 9 編(内海外 4 編)、学会シンポジウム 2 回で、研究成果報告書(90 頁)を発刊した。

平成20年度

研究推進会議で、効果的な介入研究について、コミュニケーションを支える理論とは何か、コミュニケーションを高める野外の要素は何か等の議論を行い、介入プログラムのあり方を検討した。コミュニケーションスキル獲得を意図した複数の野外教育プログラムの介入研究を行った。

“Outdoor Education- Methods and Strategies-” Ken Gilbertson et al., Human Kinetics, 2006.全 213 頁の日本語訳に取り組んだ。野外教育の有効性が認識され始めているが、まだ情報は限られており、本書の発刊は野外教育の認識を深める役割を担うと考えられる。

日本教育心理学会第 50 回総会において、自主シンポジウム「コミュニケーションスキル育成方略としての野外教育－野外という環境を活用したアプローチ－」を開催した。幅広い立場の方々から、貴重なご意見を頂戴でき、さらに研究を前進させるためのアイデアが生まれた。

具体的な研究成果は、原著論文 15 編(内海外 1 編)、学会発表 18 編(内海外 2 編)、学会シンポジウム 7 回で、研究成果報告書(84 頁)を発刊した。

平成21年度

3 年間の研究の積み上げで、青少年の非社会的行動の増加を予防するためには、コミュニケーションスキル獲得に焦点を当てた効

果性の高い野外教育プログラムが、有効であることが明らかになってきた。

従来、人は種固有のコミュニケーション信号を受け取るようにプログラミングされた反応が存在すると考えられてきている。この生得的な要素に加え、発達段階における環境との相互作用の過程から、コミュニケーション手段やコミュニケーション様式といったコミュニケーションスキルを獲得することも考えられる。

これまで、「社会的スキルトレーニング(SST: Social Skill Training)」の実行により、コミュニケーションスキル獲得が明らかになっている(渡辺・山本、2003)が、SST に限られたものではない。スキル獲得と同時に、コミュニケーション発揮の場(環境)に注意を払う必要がある。コミュニケーションの前提となる一体感や共有感、さらには安心感や信頼感を備えた環境が備われば、さらにスキルを円滑に行使し、意味深いコミュニケーションへと発展することが可能であると解ってきた。

野外教育の特徴は、学習の対象を実際に観察し、触れ感じるという「直接体験(first hand experience)」を媒介とした効果的な学習の場を提供できることにある。さらに、「活動をなしつつ学ぶ(learning by doing)」という特徴も併せ持っている。野外教育という体験教育環境下では、有効なコミュニケーションスキル獲得の機会となることが明らかになった。

日本野外教育学会第 12 回大会(2009)において、「野外教育におけるコミュニケーションスキル獲得への挑戦」の自主シンポジウムを開催し、野外教育を専門とする関係者の貴重な意見を戴き、研究をまとめるアイデアが生まれた。

具体的な研究成果は、原著論文 11 編、学会発表 18 編、シンポジウム 3 回で、研究成果報告書 (96 頁) を発刊する。(印刷中)

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 31 件）

(1)手島史子、野外教育研究における質的研究法-日常生活への汎化の検証方法検討に向けて-. 山口短期大学紀要、30、15-20. 査読有(2010)

(2)平野貴也、柳敏晴、藤永博、渡壁史子、寺澤寿一、宮崎景、セーリングスポーツにおけるコミュニケーション行動尺度の作成と検討. レジャー・レクリエーション研究、第 62 号、43-48. 査読有(2009)

(3)粥川道子、柳敏晴、札幌市の野外教育の現況-米国との比較から-、北翔大学生涯学習システム学部研究紀要、8, 49-63. 査読有(2008)

〔学会発表〕（計 45 件）

(1)西田順一、松本裕史、平野貴也、藤永博、甲木秀典、柳敏晴、堤俊彦、野外教育におけるコミュニケーションスキル獲得への挑戦、日本野外教育学会第 12 回大会プログラム・研究発表抄録集、19、2009.7.3-5.北海道教育大学釧路校、北海道

(2)Jun-ichi Nishida, Kimio Hashimoto, Toshiharu Yanagi, Toshihiko Tsutumi, and Hiroshi Matsumoto, The effects of outdoor education programs on communication skill: focusing on several aspects of aggression in elementary children. 12th ISSP World Congress of Sport Psychology, Congress Programme Posters Program, 101, 2009.6.17-21. Marrakesh, Morocco

(3)西田順一、堤俊彦、柳敏晴、渡壁史子、松本裕史、中島俊介、コミュニケーションスキル育成方策としての野外教育-野外という環境を活用したアプローチ-、日本教育心理学会第 50 回総会発表論文集、S64-65. 2008.10.11-12.東京学芸大学、東京

〔図書〕（計 7 件）

(1)山谷敬三郎、粥川道子、柳敏晴、北方圏における生涯スポーツ社会の構築. 第 4 部北方圏における自然体験活動　第 1 章体験活動の現状と課題. 全 389 頁、190-200. 北翔大学生涯スポーツ研究センター、響文社. (2010)

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

柳敏晴（YANAGI TOSHIHARU）
名桜大学人間健康学部・教授
研究者番号：30239800

(2)研究分担者

西田順一（NISHIDA JYUNNICHI）
群馬大学教育学部・講師
研究者番号：20389373

橋本公雄(HASHIMOTO KIMIO)
九州大学健康科学センター・教授
研究者番号：90106047

中島俊介（NAKASIMA SHUNSUKE）
北九州市立大学基盤教育センター・教授
研究者番号：80183507

堤俊彦(TSUTSUMI TOSHIHIKO)
近畿医療福祉大学社会福祉学部・教授
研究者番号：20259500

藤永博（FUJINAGA HIROSHI）
和歌山大学経済学部・准教授
研究者番号：20238596

手島史子（TESHIMA FUMIKO）
山口短期大学・准教授
研究者番号：60342325

平野貴也(HIRANO TAKAYA)
名桜大学人間健康学部・准教授
研究者番号：50412870

松本裕史（MATSUMOTO HIROSHI）
武庫川女子大学・講師
研究者番号：20413445

(3)連携研究者

（　　）
研究者番号：